

## ルールの強調点

競技規則委員会はフットボール綱領を導入して以来、幾度も改訂を重ねてきており、これは最高水準の倫理規定である。そこにはコーチ、プレーヤー、審判員、運営関係者の協調と合意のもとで形成された、試合の公平性と品位を保つためのガイドラインが記されている。綱領が戒める行為のひとつに「フットボールのヘルメットを武器として使用すること」が掲げられている。「ヘルメットはプレーヤーの保護の為のものである」とあり、「プレーヤー、コーチ、そして審判員は、ターゲティングしてヘルメットのクラウン（フェイスマスク上端より上の部分）で強力な接触をすることや、ターゲティングして無防備なプレーヤーの首または頭部へ強力な接触をすることの撲滅を目指さなければならない」と明記されている。アメリカンフットボール関係者全員でこの倫理規定の精神をまっとうし、伝統あるこのスポーツの将来をより実りあるものにしていただきたい。

### 無防備なプレーヤーの保護とヘルメットのクラウンでの接触について

2008年度、ヘルメットのクラウンでの接触と無防備なプレーヤーへのターゲティングに関する規則が採択された。これらは2つの独立したルールとして、ターゲティングしてヘルメットのクラウンで相手に強力な接触をすること（参照：9-1-3）とターゲティングして無防備な相手の首または頭部に対して強力な接触をすること（参照：9-1-4）に整理されている。相手を痛めつける道具として意図的にヘルメットで相手に当たりに行く行為は非常に危険である。9-1-3および9-1-4の反則に対する罰則には、自動的に資格没収が加わる。プレーヤーにこれらのルールを守らせるように、コーチや審判員がこれらの行為に対して厳しく指導することを、競技規則委員会は引き続き強調する。

無防備なプレーヤーの典型的な状態は2-27-14に定義している。

### ヘルメット

ヘルメットは頭部の負傷からプレーヤーを守るものである。よって、頭にぴったりと合わせてあることが重要であり、プレーを通じて脱げるようなことがあってはならない。そのため、プレーヤーがヘルメットを正しく装着していることをコーチやトレーナーは注意深く確認し、審判員はヘルメットがチンストラップで固定されていることを規則として厳しく施行する。3-3-9により、ダウン中にプレーヤーのヘルメットが脱げたとき、相手側の反則の結果による場合を除き、当該プレーヤーは、1ダウンは試合から離れなければならない。ただし、当該チームのチームタイムアウトが認められれば、そのプレーヤーは試合から離れなくてもよい。

### サイドラインの管理

競技規則委員会は、日本アメリカンフットボール協会傘下のチームや競技団体が、サイドラインに関する規則を守ることを強く求める。公式規則ではチームエリアやコーチングボックス（参照：1-2-4-a、リミットラインの外側で両25ヤードライン間）およびリミットライン（参照：1-2-3-aおよびb、サイドラインおよびエンドラインの12フィート外側）からサイドラインの

間は、試合関係者以外立入禁止となっている。

サイドラインから試合を観戦する者がいるが、このエリアは試合に参加しているチームのスタッフおよび試合の運営にあたるスタッフのためにのみ存在する。試合関係者以外は、サイドラインには入らない。

チームエリアには、完全にユニフォームを着た登録選手（Squad Members）を除くチーム関係者が60人まで入れることになっており、チームエリア用の入場許可証を着用していなければならない。（完全にユニフォームを着るとは、競技規則に則ってプレーができる状態の服装を言う）これらの入場許可証には1から60の番号が記載されていることが望ましい。チームエリア入場許可証は試合関係者にのみ配布され、それ以外の許可証でチームエリアに入ることはできない。

試合関係者とは以下のスタッフを含む。（参照：1-1-6および1-2-4-b）：コーチ、マネージャー、医務担当者、チーム広報担当者、および試合の運営スタッフ（チェーンクルー、ボールパーソン、メディアタイムアウトのタイマーなど）

試合中、リミットラインの外側から観客席までのエリアに立ち入ることができるのは、入場を許可されたカメラマン、放映クルー、ユニフォームを着たチアリーダー、ユニフォームを着たスタジアムの警備員である。サイドラインの秩序を維持する管理責任は、試合の運営責任者およびスタジアムの安全管理責任者にある。

公式規則9-2-1および9-2-5の編集上の変更により、コーチおよびその他のチーム関係者が審判員の決定に抗議する、あるいはプレーヤーや審判員と会話するために、レフリーの許可なくフィールド内に入ってはならないことが明記された。また、コーチおよびその他のチーム関係者は、ボールがライブ中、およびデッドを宣言された後の一連の行動が継続している間、コーチングラインの後方にいなければならない。

## 安全と医学に関する考慮点

競技規則委員会はコーチおよび審判員に対し、プレーヤーが必要な装具を確実に着用することに注意を払うことを強く推奨する。装具やパッドを正しく使用し身体を確実に覆うことは非常に重要なことである。特に、膝は露出していると容易に擦り剥いてしまうため、膝を覆うための十分な長さのパンツの着用には注意が必要である。

フットボールプレーヤーは、一般の抗生物質が効かないメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）に感染する場合があります。感染するとプレーができなくなる。近年、アメリカでは、MRSAによるフットボールプレーヤーの死亡事故も数件発生している。MRSAは土や芝の中には存在せず、人工芝の上でも生存できない。空気感染で伝播することはなく、感染している創傷に触れてしまうことや感染部位に接触したもの（タオルなど）を介することで、身体から身体への接触感染により伝播するということを理解しなければならない。

委員会ではMRSA感染を防ぐため日常から感染予防策の実施を推奨する。詳細は[www.ncaapublications.com](http://www.ncaapublications.com)に掲載されているNCAA Sports Medicine Handbookを参照のこと。

### 脳振盪

脳振盪の症状が見られる選手に対し、コーチおよび医務担当者は慎重に対処すべきである。詳細は付録Cを参照のこと。